

2025

July

329号



はあもに

令和7年7月1日発行
●社会医療法人創和会広報誌はあもに / 発行 理事長 重井文博



創和会創立67周年を迎えて(後編)

理事長 重井 文博

前号では法人の理念や医療の現状、そして私たちが目指す姿について述べました。今回は、その続きとして、法人を取り巻く医療環境の現状と、今後私たちが進むべき道について話します。

「エンジョイ 透析ライフ」という発想

まず、昨年開設した「しげい腎クリニック早島」について。皆さん、すでにご存じと思いますが、このコンセプトは、クリニック松原龍也院長の発案です。透析を「enjoy 楽しむ」というワードに、違和感を覚える方もいるかもしれませんが、私はとても良い言葉だと思います。透析には時間の束縛や水分制限などがあります。それを受け入れた上で前向きに、明るく生きていくことが大切だと思うのです。「透析だからしかたない。我慢する」ではなく、「透析があっても楽しむ」。それを可能にする場を、私たちが提供できればと考えています。しげい腎クリニック早島の特徴としている早期透析（早い時間からの透析）は、透析を朝の内にもすませ、昼食を12時にとって午後の時間を有効に過ごせる様にと松原院長の考えをあらわしたものです。

建設費高騰と厳しい経営状況

開院から半年が過ぎましたが、しげい腎クリニック早島の現状は順風満帆というわけではありません。開院計画時には想像もつかなかった昨今の物価高騰で、当初8億円だった総事業費も、最終的には12億円にまで膨らみました。この数字は、我々のような民間にとって決して軽いものではありません。ただ、それでもスタッフの要望をできる限り取り入れ、患者さんに可能な限り快適で安心できる環境を整えました。最新の透析機器システム、快適な空調設備と半個室空間、IT環境、コロナなどの感染症対応を導入。そしてエコクリニックとして屋上にこれでもかと敷き詰めるソーラー発電パネルや緑のカーテンも計画しています。また安全安心のため、地震・液状化対策としての地盤強化や水害対策として土地のかさ上げ（盛土）を行いました。患者さん、そしてスタッフに理想的透析環境を用意すべく、これらに一般的維持透析施設の1.5倍位の費用をかけています。

問題は、その返済計画。かつては「透析医療は利益が出る」と言われた時代もありましたが、診療報酬改定毎の透析関連報酬の引き下げ。透析機材や薬剤費、電子カルテ等のIT費用、人件費委託費など運営コストの上昇で、今や効率よく運営

しなければ赤字になります。しげい腎クリニック早島も現在、大きな赤字を計上しています。

私見ですが、このような状況から、今後は医療の進歩による透析に至る腎障害（合併）患者数の減少、施設の後継者問題も相まって、維持透析施設は徐々に減少していくことでしょう。そしてワークライフバランスには未だに程遠い現在の透析診療の環境を医療制度から改善せねば、透析難民が出ることになるのではないかと危惧します。

おためし透析 スタート

早島のメンバーの奮起を望む

軌道に乗るまで、
両病院からの支援を



「お試し透析」の導入と法人内の協力

早期の黒字化に向けて今取り組んでいるのがしげい病院、重井医学研究所附属病院の透析患者さんを対象にした「お試し透析」です。患者さんに実際にしげい腎クリニック早島で透析をしていただいて、クリニックの雰囲気、スタッフの人柄、設備の快適さを体感していただく。やはり見て、感じていただかないことには始まりません。「行ってみただけど、やっぱり無理だった」と言われることもあるでしょう。しかし、行ってみて「ここな

らいいかも」と思ってくれる患者さんをひとりでも増やしていく。

この取り組みには、しげい病院、重井医学研究所附属病院両方の協力が不可欠です。創和会全体で支え合いながら進めていかねばなりません。

腎不全センター幸町記念病院との連携強化

今年10月1日付けで、岡山市中心部に位置する維持透析専門ホスピタルである「腎不全センター幸町記念病院」が、合併により社会医療法人創和会の施設になります。血液透析患者数は約200人、岡山県の腎移植を長年牽引してこられた田中信一郎院長のもと、質の高い透析医療を提供している病院です。透析専門の病院というのは全国的にも数少なく、専門スタッフの揃った施設です。ぜひ一度足を運んでください。岡山駅から一つ目のJR瀬戸大橋線（宇野みなと線）大元駅から歩いて1分という立地も魅力です。

これで、創和会の透析施設はしげい病院（倉敷市）・重井医学研究所附属病院（岡山市）・しげい腎クリニック早島（早島町）・腎不全セ

ンター幸町記念病院（岡山市）の4施設となり、法人全体の透析医療補完体制が強化され、患者さんに安心していただける連携ネットワークが整いつつあります。



▲幸町記念病院のスタッフ

岡山大学（消化器内科）との共同研究講座の展開

もうひとつ、嬉しいニュースを。「肝・腎疾患連携推進講座（高木章乃夫特任教授）」に続き、岡山大学との二つ目の共同研究講座が4月からスタートしました。「肝・腎リハビリテーション（運動療法）連携推進講座」という名称です。先発の高木特任教授との共同研究はウイルス性肝炎・多発性肝腎嚢胞疾患の調査、受診啓発が中心ですが、今回の川中美和特任教授との共同研究は、メタボリックシンドローム関連肝・腎疾患の運動療法を

主軸に据え、両疾患の包括的治療と効果の評価検証を進めていきます。

我々は2011年来、腎臓リハビリテーションで成果を上げてきましたが、そのノウハウをもってまだ新しい分野である肝臓リハビリテーションとコラボレーションしようという考えです。

川中特任教授は、日本肝臓学会脂肪肝分野で全国的に知られる若手のエース。明るく親しみやすい先生です。我々には健康増進施設・指定運動療法施設「はあもにい倉敷」があり、今回の取り組みの拠点として活用する計画です。腎疾患、透析医療の現場でもフ

レイルと共に生活習慣病の改善は重要なテーマ。法人全体で取り組み、肝・腎リハビリテーションを広く発信していきたいと考えています。

岡山大学との共同研究講座

肝・腎リハビリテーション（運動療法）
連携推進講座
川中 美和 特任教授



肝・腎疾患連携推進講座
高木 章乃夫 特任教授

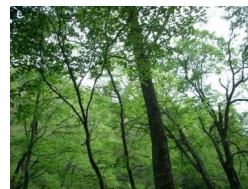


理念のもとに、これからも挑戦を

講演の締めくくりに、毎年お見せする福島県奥会津の春の写真です。私は卒後5年目に只見町国保朝日診療所（人口5千人に対して一カ所だけの医療機関、救命救急病院まで救急車で2時間、内科医、外科医で計2名体制）で、へき地診療を実体験しました。医師としての思い出の詰まる地であります。以降40年間、岡山から只見までのアクセスに8時間かけて、毎年訪れています。私のへき地医療への関心と想いはここから来ているのです。雪解けとともに咲く黄金色に光り輝く福寿草の花と、新緑匂う残雪のブナの森。自然の中に命の尊さと生きる喜びを感じる景色です。この写真を見ると、私自身も改めて自然を愛する医療人でありたいという原点に立ち返る思いがします。

法人理念「生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に」。この言葉を胸に、幾多の困難も乗り越え、より良い未来を目指して進んでいきましょう。皆さん、これからも変わらぬ理解と協力をお願いします。

みんなで止めよう温暖化 この美しい
地球と自然を 子供たちのために



2025年5月12日

創和会創立67周年記念式典 重井理事長挨拶

腎移植外来をはじめて

幸町記念病院 看護部 今永 美喜

幸町記念病院は 2025 年 4 月から岡山医療センターの藤原拓造先生に担当していただき、腎移植外来を開設いたしました。藤原先生は長年にわたり腎移植医療に従事され、豊富な臨床経験と高い専門性をお持ちでいらっしゃいます。その経験を当院での診療においてもご提供していただけることとなりました。

現在、毎週金曜日（2025 年 8 月からは毎週火曜日）を外来診療日とし、延べ 30 名程度の腎移植後の患者さんに対して、継続的なフォローアップを中心とした診療を行っております。腎移植外来開設当初は、初めて当院に来院される患者さんとの信頼関係を築くため、時間をかけてしっかりとコミュニケーションを取りました。問診や採血などは専任の看護師が担当し、患者さん一人ひとりに寄り添うことを心がけ、丁寧で細やかなケアを行えるような状況になったと思います。さらに、専門性に特化した病院の強みを活かして、検査や



▲移植外来 診察風景

事務手続きを効率よく進め、患者さんの待ち時間や通院時のご負担を減らせるよう他部署と連携しております。また、当院は大元駅前という立地に恵まれており、患者さんから通院しやすいと好評を得ています。

今後は、腎移植前の患者さんとそのご家族の不安や疑問にも対応できるような診療体制を整えていく予定です。看護師として、腎移植に関する専門的な知識と経験を活かし、患者さんの状態に応じた支援が提供できる環境づくりを進めてまいります。

ひまわり号 尾道の旅 医療ボランティアに参加して

しげい病院 内科・泌尿器科部長 若林 智生
看護部 副主任 小林 利恵
看護部 本館4階南 赤澤 尚樹

5月24日（土）ひまわり号尾道の旅に医療班として参加しました。この取り組みは、障がいやさまざまな事情で遠出が困難な方々にも旅行を楽しんでいただくことを目的としています。今年で38回目を迎え、旅行先は広島県尾道市でした。行程表に千光寺があり、理事長よりけん引式車椅子補助装置 JINRIKI をお借りしました。そのお心遣いに感謝しつつ、当日を迎えました。前日まで続いていた雨も当日は止み、天候に恵まれて出発できました。

参加者とボランティア合わせて総勢 220 名ほどの団体で、JR 電車 4 両を貸し切り、倉敷駅から尾道駅まで移動しました。私たちは 4 号車を担当し、車内では天候や地形、参加者名簿をもとに、

急な体調変化や必要な看護について打ち合わせを行いました。安全を第一に考えながら、参加者が



旅を楽しめるよう努めました。

現地に到着し、担当場所で待機している間、参加者の皆さまから声を掛けていただくことが多く、しげい病院を知っていただく良い機会にもなりました。多くのボランティアの方々の支援もあり、参加者の皆さまは安心して旅行を満喫されていました。幸いにも体調不良や怪我の発生はなく、無事に全行程を終えることができました。

日常の支援を超え、地域と地域、人と人とがつながることで生まれる「地域ケア」の可能性を実感し、私たちにとっても今後の診療や看護に活かせる貴重な経験となりました。この取り組みに携わったすべての関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。



▲ひまわり号

ミャンマー地震支援活動への寄付

～ジャパンハート 吉岡春奈理事長からお礼の連絡をいただきました～

しげい病院 事務次長 河原 秀明

しげい病院では、2024年に実施した「ローコストオペレーション」活動で得られたコスト削減分の10%、718,739円を、国際医療NGO 特定非営利活動法人ジャパンハート「ミャンマー地震緊急支援」へ寄付いたしました。

このジャパンハートは、かつて重井医学研究所附属病院に勤務されていた吉岡春奈先生が理事長を務め、現在はミャンマーでの医療支援・復興活動に尽力されています。

2025年3月28日に発生したミャンマー地震では、現地で活動していた日本人スタッフが、震源地に近い病院を拠点として震災直後から迅速に医療支援を開始。現在、ミャンマーは雨季に入っており、今後デング熱などの感染症が懸念。医療支援に加え、蚊帳やテントなどの生活物資の提供も強化されているようです。

しげい病院からの寄付に対し、吉岡理事長より以下のご連絡をいただきました。

「このたびのご支援に、心より感謝申し上げます。東日本大震災の際に重井理事長ご自身が現地に足を運ばれたことも今なお鮮明に覚えております。今回もまた、多くのあたたかいお心をいただき、身が引き締まる思いです。皆さまからのご厚意を、確実に現地へと届けてまいります」



▲2012年 宮城県石巻市ジャパンハート こども・内科クリニックにて当時の吉岡小児科医長（左）と重井理事長（右）

NPO 法人ジャパンハートによって開設されたジャパンハート こども・内科クリニック。創和会からの支援金はこのクリニック開設のための資金として活用されていました。2012年、しげい病院院長であった重井理事長が立ち寄った時に診療にあたっていたのは、重井医学研究所附属病院で小児科医長をされていた吉岡理事長でした。

10年永年勤続海外研修

～家族6人でのハワイ満喫旅～

重井医学研究所附属病院 血液浄化療法センター 伊藤 郁美

この度、3月30日から4月4日までハワイ研修に行かせていただきました。

今回は家族6人での旅でした。ハワイは10年ぶり2回目でしたが、飛行機を降り立ったときのワクワクした気持ちは以前より強かったように思います。

入国してすぐ、工事期間中で入山できる日がこの日しかなかったため、時差ボケ・寝不足の状態でしたがダイヤモンドヘッドへ行きました。登山中はしんどく途中であきらめようと思いましたが、休みながらなんとか山頂まで行くことができました。山頂からの景色をみると登山中のしんどさなど忘れるくらい、すばらしく感動的でした。

2日目はクアロア・ランチに行きました。ジュラシックパークなど映画撮影がたくさん行われているため、映像では見たことがありましたが、バスから降りた瞬間、目の前に広がる山々に圧倒され別世界に来たのではと思うほどでした。自然豊かな山中をバギーで2時間走り、顔も服も泥まみれになりましたが、とても楽しかったです。

3日目はドールプランテーションとハレイワに行きました。ツアー参加者が家族だけだったため、大型バスが貸し切り状態でした。運転手さんは日

本へのホームステイ経験があり、日本語で案内をしてくれたため、移動時間もあっという間に過ぎました。ドールプランテーションでは敷地内を列車で回ったり、パイナップルガーデン迷路を楽しんだりしました。迷路にはチェックポイントが設置してあるのですが、すべてクリアすることができず悔しい思いをしました。しかし、その後パイナップルアイスを食べた瞬間、美味しさのあまり悔しさは吹き飛びました。その後、ハレイワに向かい有名店のかき氷やハンバーガーを食べました。何もかもがビックサイズで、お腹一杯になりました。

4日目の午前中はワイキキビーチに行き、海に入りました。海水は思ったより冷たかったです。午後からはダウンタウン散策をしました。訪れたセント・アンドリュース大聖堂内のステンドグラスはとてもきれいで、いつまでも見ることができました。

今回は予定を詰め込みすぎ、ややハードでしたが、とても楽しく、あっという間に過ぎました。またいつかハワイに行くことができるよう、日々仕事を頑張ろうと思いました。最後になりましたが、今回はこのような機会をいただきありがとうございました。



▲ダイヤモンドヘッドからの眺め



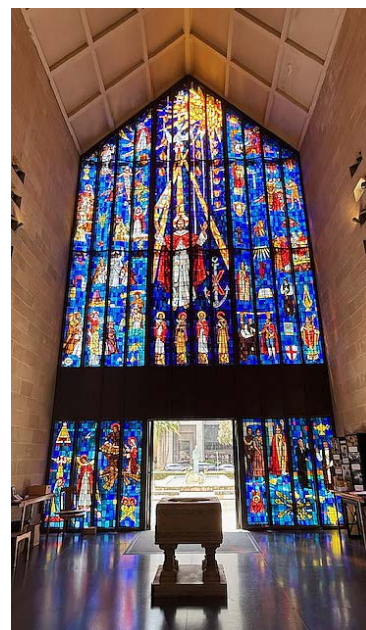
▲クアロア・ランチ



▲カメハメハ大王像



▲ワイキキビーチ



▲セント・アンドリュース大聖堂

今年も白熱！院内バレーボール大会！

重井医学研究所附属病院 事務部 伊達 仁一

5月18日(日)箕島小学校体育館で選手や応援、その家族を含めて約100名が参加してバレーボール大会が開催されました。手に汗握る試合が続出。2セットマッチで同点の場合は、全員でジャンケンをして決着を決めますが、6試合中4試合がジャンケン勝負にもつれこむという白熱した展開でした。

決勝戦では、これまで1セットも落とさなかった、リハビリ部と放射線部と地域連携室の多職種混合

チームと、ワイルドカードで上がってきた事務部と人材育成推進室のチームが対戦。試合はフルセットまでもつれましたが、「事務と人推」が最後は逃げ切り優勝を勝ち取りました。MVPは攻守共に大活躍だった、事務部の中田空選手に贈られました。

試合の間には子供たちがボール遊びをする時間もあり、みんなが楽しめるイベントになったのではないかと思います。個人的には2連覇できたので大満足な大会でした！



▲参加者集合写真



▲大会の様子

笑顔あふれる癒しの時間 はじめてのアニマルセラピー！

はあもにい倉敷 介護予防チーム 看護師 大村 奈美

5月12日(月)、はあもにいデイ・フィットネスで初めての試みとしてアニマルセラピーを実施しました。セラピードッグの姿が見えた途端「まあ！かわいい！！」と利用者さんの表情がぱっと明るくなり、フロアには自然と笑顔があふれました。普段は控えめな方も、そっと手を伸ばして優しく撫でたり「かわいいね」「お利口さんね」と声をかけたりする様子が見られ、セラピードッグの持つ癒しの力を実感しました。

翌週には、利用者さん同士で「先週はかわいいお客さんが来たね」「癒されたね」といった会話が交わされており、アニマルセラピーが心に残るひとときとなったことがうかがえました。皆さんに喜んでいただけたことが伝わり、スタッフ一同大変うれしく思っております。

今後も、このようなふれあいの機会を大切に、利用者さんの毎日に彩りを添えられるような取り組みを継続してまいります。



催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「夕闇に耀(かがよ)う
キスグを楽しむ」

日時：7月12日(土)
18:00～20:00
会場：重井薬用植物園

編集後記

●大阪・関西万博に行ってきました。話題のイタリヤ館に行きたかったのですが、スタッフの方に待ち時間を何うと「2時間以上です。果てしなくかかりますね」とコテコテの関西弁で返され断念。それでも1日で7カ国のパビリオンをまわり、各国の歴史の重みや文化への愛を体感することができました。今まで地理や歴史には全く興味がなかった私ですが、自国愛溢れる展示の数々に刺激を受け、各国の風土を勉強してみたいなと思いました。インドのビリヤニが美味しかったので、行かれる方はぜひ食べてみてください。(NM)

●王子が岳まで家族でドライブ。その日は天気も良く絶好のお出掛け日和。駐車場待ちができるほど多くの人が訪れていました。車を止めてしばらく歩くとニコニコ岩と呼ばれる大きな岩に到着。名前の通りニコニコ笑顔で佇む姿はなんとも愛らしく、自然が作り上げたのかと思うと驚きです。勇気を振り絞り、足が竦むような断崖にある岩の上に立ち、絶景をバックに写真も撮影(怖かった……)。王子が岳は瀬戸内海国立公園に指定されており、遊歩道を歩けば森林浴も楽しめ、展望台からは瀬戸内海の島々と雄大な瀬戸大橋の全景を見ることができます。皆さまも是非訪れてみてください。(ZT)

EAP相談室コラム

「ナッジとスラッジ～行動経済学を役立てよう その3～」

ジャパンEAPシステムズEAP相談室

●ナッジとは

ナッジは2017年にノーベル経済学賞を受賞したリチャード・セイラーが提唱したもので、近年注目を集めるようになりました。ナッジとして有名なのが、タバコのポイ捨て問題に対するイギリスのNPO団体「Hubbub」の試みです。サッカー好きのロンドン市民に、「クリスティアーノ・ロナウドとリオネル・メッシ、どっちが世界最高のプレーヤー？」と、ロナウドとメッシの名前を書いた吸い殻入れを並べ、吸い殻で投票できるようにし、ポイ捨てを減らすことに成功しました。ナッジ(nudge)とは、「肘で軽くつつく」「そっと後押しする」といった意味で使われる行動経済学の用語で、「選択の自由を確保しつつ、強制力や金銭的インセンティブを使わずに行動を促す手法」などと説明されています。吸い殻の例は市民の遊び心を刺激した、素晴らしい取り組みですね。

●ナッジの具体例

健康経営の取り組みの一つに従業員の食生活の改善がありますが、ナッジが活用されています。たとえば社員食堂で、「健康のために野菜を食べよう」と掲示するよりも、サラダを手前に並べる方が効果的であることがわかっています。あるいは社内の自動販売機に、「清涼飲料水には砂糖がたくさん入っています！」と掲示するよりも、無糖飲料を目の高さに配置する方が効果的なのです。今回のコロナでエントランスにアルコール消毒器が置かれるようになりましたが、この消毒器に向かって床に矢印を描くだけでも利用率が上がるということがわかっています。目の引きやすさや手軽さが効果を上げるわけですね。

●スラッジとは

しかし、私たちに不利益をもたらすような誘導もできるでしょう。たとえばあるサービスを退会したいのに、その手続きが複雑で諦めてしまうことがあります。これは「悪いナッジ」であり、スラッジ(sludge:汚泥)と呼んでいます。

●ナッジを活用しよう

ナッジは国の政策にも取り入れられ始めています。厚生労働省は「健康寿命延伸プラン」で、生活習慣病予防や健康診断の受診勧奨にナッジの活用をうたっていますし、自治体は「ナッジ事例集」といった資料を公開し、成功事例を共有しています。

ナッジはビジネスでも応用可能です。というよりも、ビジネスで成功する方法や斬新なアイデアなどは、ナッジ的要素がけっこう入っていると断言していいのではないのでしょうか。ナッジという言葉ができる前から私たちはナッジ的な工夫をしていたのです。みなさんの仕事や家庭生活の中で、ちょっとしたナッジを考えてみませんか。

執筆者：米沢 宏（ジャパンEAPシステムズ顧問医）

※社会医療法人創和会は職員の心の相談窓口として、ジャパンEAPシステムズと契約しています。相談はお気軽に、電話やメールで。

社会医療法人 創和会グループ

WEB版はこちら。
バックナンバーもご覧ください。➡



- しげい病院
- 重井医学研究所附属病院
- しげい腎クリニック早島
- 医療法人 三祥会 幸町記念病院

- 倉敷しげい訪問看護ステーション
- 倉敷しげい居宅介護支援事業所
- 岡山しげい訪問看護ステーション
- 岡山しげい居宅介護支援事業所

- 重井医学研究所
- 健康増進施設 はあもにい倉敷
- 重井薬用植物園
- 倉敷昆虫館